

短 報

群馬県から2010年に新たに記録された維管束植物

大森威宏

群馬県立自然史博物館：群馬県富岡市上黒岩1674-1 (ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

**要旨：**在来の維管束植物1種1亜種1変種と外来の維管束植物5種が2010年に群馬県から新たに見いだされた。在来種はケミヤマアカバナ (*Circaea alpina* L. subsp. *caulescens* (Kom.) Tatew.), センボンギク (*Aster microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav. var. *microcephalus*) , エゾカモジグサ (*Elymus kurilensis* Probat.) である。一方コゴメナデシコ (シュクコンカスミソウ : *Gypsophila paniculata* L.), ハイニシキソウ (*Chamaesyce prostrata* (Aiton) Small), タマザキフタバムグラ (*Hedyotis corymbosa* (L.) Lam.) キツネノテブクロ (*Digitalis purpurea* L.), クシロヤガミスゲ (*Carex crawfordii* Fernald) は外来種である。

**キーワード：**群馬県初記録, 維管束植物, 在来種, 外来種。

Note on vascular plants newly recorded from Gunma Prefecture, central Japan in 2010

OHMORI Takehiro

Gunma Museum of Natural History : 1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma Prefecture  
(ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

**Abstract:** Three native vascular plants and five exotic ones were newly recorded from Gunma Prefecture in 2010. *Circaea alpina* L. subsp. *caulescens* (Kom.) Tatew., *Aster microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav. var. *microcephalus* and *Elymus kurilensis* Probat are native. And *Gypsophila paniculata* L., *Chamaesyce prostrata* (Aiton) Small, *Hedyotis corymbosa* (L.) Lam., *Digitalis purpurea* L. and *Carex crawfordii* Fernald are exotic.

**Key Words:** Newly recorded from Gunma, vascular plant, three native taxa, five exotic taxa.

はじめに

群馬県では2011年度中に絶滅のおそれのある野生生物の一覧であるレッドデータブックを改訂する予定である。その準備として2010年に全県的なフィールド調査が行われ、筆者も調査員として参加した。この結果過去に群馬県から記録がない在来植物が見いだされた。さらにこれらの調査やその途上で群馬県から記録がない外来植物も見いだすことができた。本稿ではこれらの植物の中から同定が終了したのものについて記述する。本稿に引用した標本はすべて群

馬県立自然史博物館植物標本庫 (GMNHJ) に収蔵してある。

群馬県新産在来植物

ケミヤマタニタデ *Circaea alpina* L. subsp. *caulescens* (Kom.) Tatew. : Onagraceae

ケミヤマタニタデ *Circaea alpina* L. subsp. *caulescens* (Kom.) Tatew. は、ミヤマタニタデ (*C. alpina* subsp. *alpina*) の亜種で、従来分類学的取り扱いが混乱してきたアカバナ科の多年草である (Boufford 1982)。我が国の最新の植物

誌であるFlora of JapanではBoufford (1982) の見解に従って明確にこれらの2亜種を分けている (Boufford 1999) が、それ以前に出版された群馬県植物誌にはケヤマタニタデの記録はない(戸部ほか 1987)。その後行われた群馬県内の学術調査でも本亜種はミヤマタニタデまたはタニタデに同定され、Boufford (1999) もケミヤマタニタデの産地として群馬県を引用していない。2010年8月14日、沼田市利根町追貝の栗原川支流でケミヤマタニタデがミヤマタニタデとともに生育しているのが見いだされた。その後群馬県立自然史博物館のミヤマタニタデの収蔵標本を再検討した結果、霧積山地や妙義山塊からも過去にケミヤマタニタデが採集されていたことが明らかになった。ケミヤマタニタデの過去の群馬県内の採集地点はミヤマタニタデより低い地点に偏る傾向がある。ケミヤマタニタデはミヤマタニタデよりも標高が低い場所を好むが、時に混生することが指摘されており (Boufford 1982)、群馬県における分布傾向もこれとよく一致する。

**Voucher Specimen : Japan, central Honshu, Gunma Pref. :** GMNHJ-BS-13469 (Hachirinpan-zawa, Tonemachi-Okkai, Numata City, 14 Aug., 2010, Takehiro Ohmori *et al.* 7902).

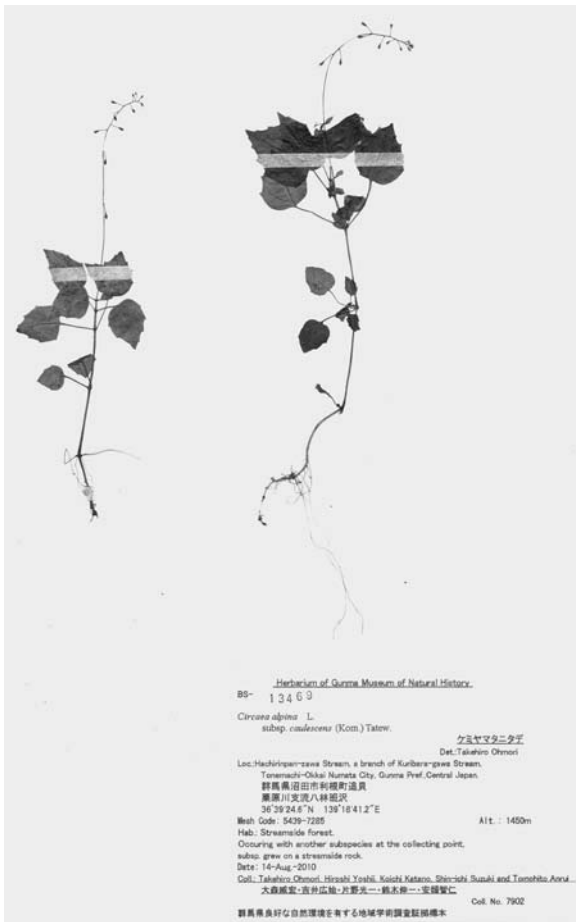


Fig. 1 A specimen of *Circaea alpina* subsp. *caulescens* collected in Gunma Prefecture.

**センボンギク *Aster microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav. var. *microcephalus*: Asteraceae**

センボンギク *Aster microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav. var. *microcephalus* は、ノコンギク (*A. microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav. var. *ovatus* (Franch. et Sav.) Mot. Ito et Soejima) の学名上の基本変種とされるキク科の多年草で (Soejima and Ito 1998)、紀伊半島以外の本州の溪流沿いに分布する (いがり 2007)。2010年10月31日、群馬県内の渡良瀬川からセンボンギクが見いだされた。なお、本種は花が美しく盗掘される危険性があり、かつ現在この自生地は一般に知られていないため、自生地の詳細の公表は控える。なお、沼田市利根町追貝から溪流性のホソバコンギク (*Aster ageratoides* Turcz. subsp. *angustifolius* (Kitamura) Kitamura) が記録されている (戸部ほか 1987) が、証拠標本が残されていないため、これがセンボンギクに該当する型であるかは判定できず、また同地域で後に行われた調査でもホソバコンギクもしくはセンボンギクの記録はない (天然記念物及び名勝「吹割溪及び吹割瀑」基礎調査事業植物調査会 1999)。溪流沿いに自生する *Aster* 属は西日本を中心に分類的な課題が多く、さらにセンボンギクと狭葉型のノコンギクとの関係も微妙である (いがり 2007)。ただし、渡良瀬川のセンボンギクは葉の幅が2~8mmの範囲にあり、背丈が30~40cmほどで根元から株立ちとなり、また河川からの飛沫がかかる岩の上に生育し、同変種としては典型的なものと考えられる。

**Voucher Specimen : Japan, central Honshu, Gunma Pref. :** GMNHJ-BS-13683 (Watarase Riv., 31 Oct., 2010, Takehiro Ohmori 8124).



Fig. 2 A habitat of *Aster microcephalus* var. *microcephalus* on Watarase Riv., Gunma Prefecture.

**エゾカモジグサ *Elymus kurilensis* Probat.: Poaceae**

エゾカモジグサ *Elymus kurilensis* Probat. は日本では北海道及び本州中部に分布するイネ科の多年草である (長田 1989)。本州中部では長野県、埼玉県、栃木県から記録があるが、いずれの県でも稀である (白井ほか 1997; 伊藤編

1998; 長谷川 2003). 2010年7月20日, エゾカモジグサが吾妻郡嬭恋村に自生しているのが確認された. エゾカモジグサは, 小穂がこの属としては小振りで, 外形がヤマカモジグサ *Brachypodium sylvaticum* (Huds.) Beauv. に類似し, さらに亜寒帯の樹林の攪乱地や林道脇など他のカモジグサ属とはやや生育立地が異なるため見過ごされてきたか, ヤマカモジグサとして処理されてきたと考えられる. 嬭恋村の自生地は, 斜面下部にある湿潤な夏緑樹林で, エゾカモジグサは100個体以上が群生していたが, 周辺の歩道の整備や除草で減少する危険性がある. しかし, 自生地周辺には同種が好む湿生林やカラマツ植林地の林道が多くあり, 産地はさらに増える可能性もある.

**Voucher Specimen :** Japan, central Honshu, Gunma Pref. : GMNHJ-BS-13651 (Tsumagoi Vill., 20 Jul., 2010, Takehiro Ohmori 7878).



Fig. 3 A habitat of *Elymus kurilensis* in Tsumagoi Vill., Gunma Prefecture.

### 群馬県新産外来植物

コゴメナデシコ (シュクコンカスミソウ) *Gypsophila paniculata* L. : Caryophyllaceae

コゴメナデシコ (シュクコンカスミソウ) *Gypsophila paniculata* L. は, 園芸植物として栽培されているが逸出帰化することがあるナデシコ科の多年草である (清水 2003). 2010年6月4日, 前橋市箕井町の道路脇に逸出しているのが確認された. 本種は切り花やドライフラワーとして用いられる一方で, 花がオミナエシ科に類似する悪臭を放つ系統がある. 前橋市で採集されたものも悪臭を放つ系統であった.

**Voucher Specimen :** Japan, central Honshu, Gunma Pref. : GMNHJ-BS-13416 (Fujioka - Ogo Prefectural Road, Utsuhoimachi, Maebashi City, 36° 21'36.0"N, 139° 08'14.4"E, 80m, 4 Jun., 2010, Takehiro Ohmori 7731).



Fig. 4 A specimen of *Gypsophila paniculata* collected in Gunma Prefecture.

ハイニシキソウ *Chamaesyce prostrata* (Aiton) Small : Euphorbiaceae

ハイニシキソウ *Chamaesyce prostrata* (Aiton) Small は九州以北には1970年頃から侵入したトウダイグサ科の一年草である (黒沢 2003). 群馬県には形態が類似したアレチニシキソウがすでに侵入している (松澤・青木 2006) が, 本種の記録はなかった. 2010年11月7日に東武鉄道太田駅で見いだされた植物は, 葉が小型で色がアレチニシキソウよりも濃く, 葉裏の毛が葉身の先端側4分の1にしかない点からハイニシキソウと同定された. 自生地は高架駅のコンコース脇の砂利の間で, ハイニシキソウが純群落を形成していた.

**Voucher Specimen :** Japan, central Honshu, Gunma Pref. : GMNHJ-BS-13838 (Ota Station, Ota City, 36° 17'38"N, 139° 22'45"E, 40m, 7 Nov., 2010, Takehiro Ohmori 8171).

タマザキフタバムグラ *Hedyotis corymbosa* (L.) Lam. : Rubiaceae

タマザキフタバムグラ *Hedyotis corymbosa* (L.) Lam. は熱帯アメリカ原産で, 戦後沖縄や小笠原諸島に記録されているほか, 近年本州でも園芸用土のヤシ殻に付着した種子由来のものがみられるようになったアカネ科の一年生草本である (植村ほか 2010). 2010年10月31日みどり市大間々町の路傍とそれに接する空き地から本種の自生が確認され

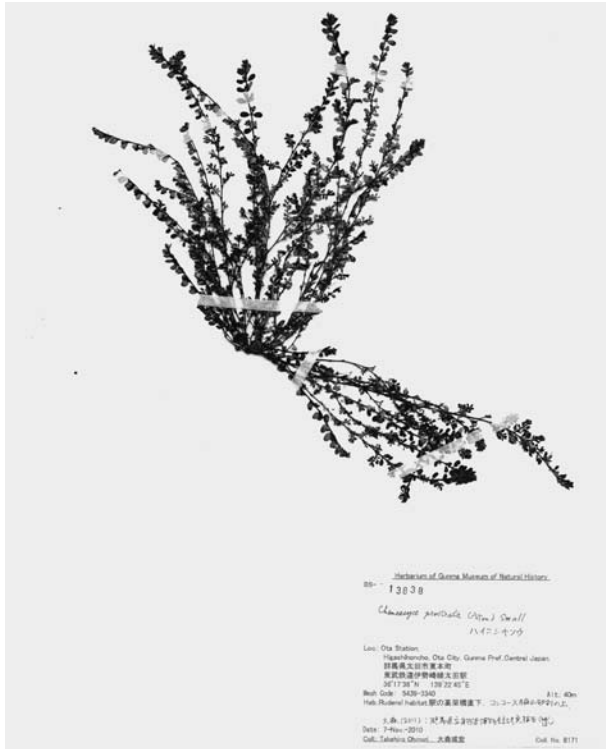


Fig. 5 A specimen of *Chamaesyce prostrata* collected in Gunma Prefecture.



Fig. 6 A specimen of *Hedyotis corymbosa* collected in Gunma Prefecture.

た. みどり市の自生地付近には鉢植えの園芸植物が路上に置かれ、そこから種子が流出したと考えられる。2010年現在の自生地は長さ50mの範囲にとどまっていた。

**Voucher Specimen :** Japan, central Honshu, Gunma Pref. : GMNHJ-BS-13684 (Omama-6chome, Midori City, 36° 25'44"N, 139° 16'32"E, 170m, 31 Oct., 2010, Takehiro Ohmori 8136).

**キツネノテブクロ *Digitalis purpurea* L. : Scrophulariaceae**

キツネノテブクロ *Digitalis purpurea* L.はジギタリスの園芸名で知られるゴマノハグサ科の多年草である。2010年7月21日吾妻郡嬭恋村干俣の夏緑樹林の林床に本種が生育しているのが確認された。採集地点周辺は過去に鉱山が存在し、鉱山住宅や施設も存在していた。しかし、自生地付近にあった鉱山は閉山から40年経過し、周囲にも住宅や観光施設もないため、園芸植物を植栽することは考えられない。したがって、今回採集されたキツネノテブクロは過去の鉱山住宅で栽培されていたものが周囲の林内に逸出し、分散したものと考えられる。

**Voucher Specimen :** Japan, central Honshu, Gunma Pref. : GMNHJ-BS-13639 (Agatsuma Mine, Hoshimata, Tsumagoi Vill., 36° 35'53.0"N, 138° 30'30.1"E, 1440m, 21 Jul., 2010, Takehiro Ohmori 7884).



Fig. 7 A specimen of *Digitalis purpurea* collected in Gunma Prefecture.

クシロヤガミスゲ *Carex crawfordii* Fernald : Cyperaceae

クシロヤガミスゲ *Carex crawfordii* Fernaldは国内では1984年に北海道釧路市で初めて見いだされた北アメリカ原産のカヤツリグサ科の植物である(滝田 1987; 勝山 2005)。北海道ではその後石狩、釧路、胆振に広がった(勝山 2005)。2010年7月20日、吾妻郡嬭恋村のバラギ湿原から採集された外来ヤガミスゲ類は、果胞の長さが4~4.5mmで幅が1mm未満であり、勝山(2010)が指摘するクシロヤガミスゲの果胞サイズと一致した。さらに、小穂が密集する点も本種の特徴と一致した。クシロヤガミスゲはバラギ湿原の木道脇の低層湿原に5株が生育していた。木道に近い部分とはいえ、ヨシが優占する低層湿原に生育することから、クシロヤガミスゲは北海道のみならず群馬県や長野県、東北部などの本州の寒冷地では、今後低層湿原などの自然植生にも侵入することが考えられる。

**Voucher Specimen : Japan, central Honshu, Gunma Pref. :** GMNHJ-BS-13636 (Baragi Fen, Hoshimata, Tsumagoi Vill., 36° 32'43.4"N, 138° 28'33.8"E, 1260m, 20 Jul., 2010, Takehiro Ohmori 7882).

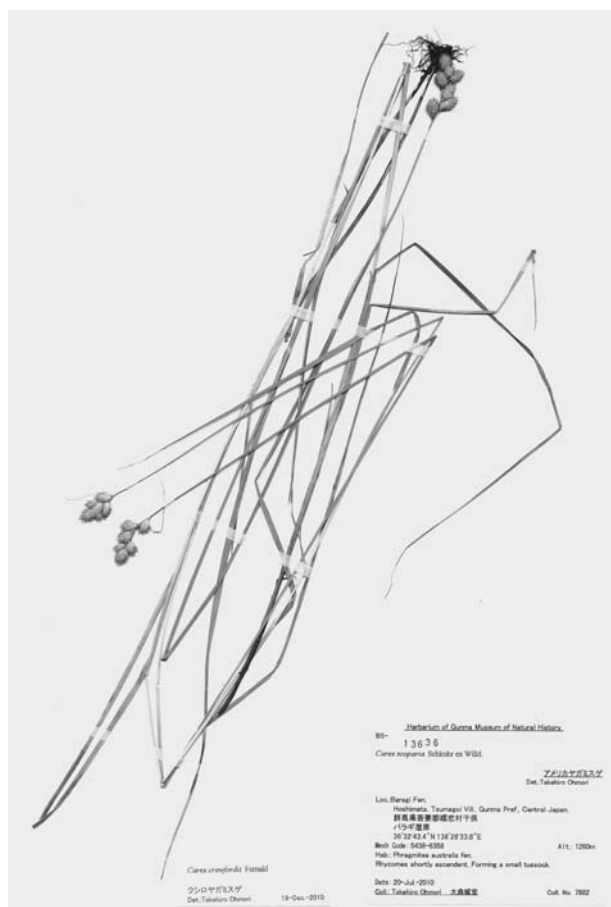


Fig. 8 A specimen of *Carex crawfordii* collected in Gunma Prefecture.

## 引用文献

- Boufford, D.E. (1982) The genus *Circaea* (Onagraceae) in Japan. Acta Phytotax. Geobot., **33**: 28-40.
- Boufford, D.E. (1999) 2. *Circaea* L.. In Iwatsuki, K., Boufford, D.E., and Ohba, Hideaki eds. Flora of Japan II c. Kodansha, Tokyo, p.228-235.
- 長谷川順一(2003):イネ科 Gramineae. 栃木県自然環境調査研究会植物部会(編) 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの植物 I, 栃木県林務部自然環境課, 宇都宮, 414-438.
- いがりまさし(2007):山溪ハンディ図鑑11 日本の野菊. 山と溪谷社, 東京, 278pp.
- 伊藤 洋編(1998):1998年版 埼玉県植物誌. 埼玉県教育委員会, 浦和, 833pp.
- 勝山輝男(2005):ネイチャーガイド 日本のスゲ. 文一総合出版, 東京, 375pp.
- 勝山輝男(2010):北海道に帰化した日本新産帰化植物 コツプアメリカヤガミスゲ(新称)(カヤツリグサ科). 莎草研究(15):1-6.
- 北村四郎・村田 源・小山鐵夫(1964):原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ. 保育社, 大阪, 465pp.
- 黒沢高秀(2003):トウダイグサ科 EUPHORBIACEAE. 清水建美(編著)日本の帰化植物, 平凡社, 東京, p.130-133.
- 松澤篤郎・青木雅夫(2006):1. 植物. 館林市史資料目録『たてばやしの動植物—目録および調査基礎資料集—』, 館林市, 78pp.
- 長田武正(1989):日本イネ科植物図譜. 平凡社, 東京, 759pp.
- 清水建美(2003):ナデシコ科 CARYOPHYLLACEAE. 清水建美(編著)日本の帰化植物, 平凡社, 東京, p.54-64.
- 白井伸和・高橋一臣・清水建美(1997):146. イネ科 POACEAE (GRAMINEAE). 長野県植物誌編纂委員会(編)長野県植物誌. 信濃毎日新聞社, 長野, p. 1284-1396.
- Soejima, A. and Ito, M. (1998): *Aster microcephalus* (Miq.) Franch. et Sav., the correct name for *A. ovatus* (Franch. et Sav.) Mot. Ito et Soejima, Acta Phytotax. Geobot., **49**: 151-152.
- 滝田謙讓(1987):東北海道の植物. カトウ書館, 釧路, 1111pp.
- 天然記念物及び名勝「吹割溪及び吹割瀑」基礎調査事業植物調査会(1999):天然記念物及び名勝「吹割溪及び吹割瀑」基礎調査事業植物調査報告書. 利根村教育委員会, 群馬県利根村(現沼田市), 59pp.
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次・松沢篤郎・須藤志成幸(1987):群馬県自生高等植物目録. 群馬県高等学校教育研究会生物部会(編) 群馬県植物誌 改訂版, 群馬県, p. 153-393.
- 植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田新七・池原直樹(2010):日本帰化植物写真図鑑 第2巻. 全国農村教育協会, 東京, 579pp.

